

早稲田大学 社会科学部 世界史 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク式・記述式併用
試験時間	60分
特徴・その他	昨年度と同じくマーク式と記述式の併用問題となった。マーク式の問題に難問が目立つ。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	西欧近代史雑題	1のジェヴォンズは難問。『用語集』の説明文にはその名が見えるが、そこまで覚える受験生はほとんどいないだろう。8は1781年だが、シラーの『群盗』の年代は難しい。消去法でも西山朝の成立がひっかかるだろう。10の「結集政策」はユンカーと産業資本家の利害を一致させる国内政策。『用語集』にはないが、一部の教科書の脚注には説明がある。11のデーヴィーは英の化学者で電気化学の実験を行った。	難
II	古代ローマ史	4の「アントニヌス勅令」(カラカラ帝)は一文でも出題された。7の第一回三頭政治の際の縄張りには引っかかりやすい。9のコロッセウムの建設着手者ヴェスパシアヌスは難問だが、選択肢の構成から消去法が可能。	標準
III	朝鮮史	7の己酉約条は難問。8の場市も難しいがこちらは消去法が可能。10の朴齊家も難物。語群も一般には知られていない人物が並び消去法での対応も不可能である。問4は紅巾軍と女真人の二つが候補にあがる。	難

〔総合コメント〕

記述式の問題は無理のない設問が大半で（ジェヴォンズは例外）あるが、マーク式は難問が多い。第三次英蘭戦争と審査法をつなぐ問など年代関係も難しい。今年度に限れば、早大世界史で点の取りにくいのは社学と政経が双壁である。難問での得点は容易ではないので、標準レベルの問題での取りこぼしは致命的になる。